

「環境保全に取り組む市民大集合」は、長野県内各地で環境保全活動に取り組んでおられる方々や、これから取り組んでみたいと思っておられる方々が年1回集う交流の場として開催してきました。1回目は、国際生物多様性年の2010年でした。これは、当研究所の主要な研究テーマの一つである生物多様性保全と、“保全活動を市民との協働により進める”という研究所の設立趣意を再確認するという意味もありました。以後、毎年1回秋に開催し、この間に県内各地から毎回12～23、計50の団体・個人による活動の口頭発表や資料展示があり、市民活動の交流の貴重な場となってきました。

今号では、昨年9月に実施した4回目の内容から、県内のさまざまな活動の口頭発表・展示の様子と基調講演の内容(概要)をお届けします。調べたことを公表し、仲間を増やし、行政と連携しながら自然環境の保全を実行してきた経験や課題について、多くの情報が提供され、今年も収穫の多い1日となりました。

(企画担当：畑中健一郎・陸 斉・大塚孝一)

開催日時：平成 25 年 9 月 7 日 (土) 10:30 ~ 15:30

会場：環境保全研究所 飯綱庁舎

プログラム 1. 基調講演「調べた結果をどう活かすか」
2. 活動紹介3分間スピーチ (10 団体・個人)
3. 活動発表 (3 団体)
4. 意見交換会「調べた結果をどう活かす？」

参加者数：43 名 / 活動展示：22 団体・個人

活動発表 (3 団体) 協働ですすめる地域の自然環境保全

■ NPO法人 千曲市環境市民会議

千曲市環境市民会議は、2006年に策定された千曲市環境基本計画に基づく各種プロジェクトを推進するために設立された団体で、今回の発表では自然環境関係のプロジェクトについて紹介していただきました。「千曲市の残したい自然マップ」の作成、自然観察会の開催、子供たちの環境学習の支援など、様々な取り組みを積極的に実施され、とくに2011年に刊行された千曲市レッドデータブックの作成に際しては、会員が調査員として大きな力を発揮し、それまで詳細なデータがなかった市にとって大変貴重なデータを得ることができたとのことです。レッドデータブックの刊行後も毎年モニタリングを続けた結果を市に報告し、その概要が環境白書に掲載されているとのことです。また、これら莫大な調査データと写真を活用して、身近な自然のガイドブックを作成し、月に1回開催する自然観察会で参加者に配布し、好評を得ているとのことです。いずれの取り組みも市の施策と密接に関係し、自然と共生する住みよいまちの実現を目指した実践的な取り組みであり、他の参加団体の方にも非常に参考となる発表内容でした。



千曲市環境市民会議の発表



信州ツキノワグマ研究会の発表

■ NPO法人 信州ツキノワグマ研究会

信州ツキノワグマ研究会は、ツキノワグマと人間との共存を実現することを目指して1995年に設立され、クマによる被害の除却や学習放獣、行動追跡、普及啓発などさまざまな活動に取り組まれています。長野県では初めての学習放獣を試行し、定着させるなど、その活動は全国的にも注目されています。今回の発表の中では、とくにクマ対策に従事する専門家を行政が配置することの必要性を強調されていました。2007年に県のクマ対策員制度が発足しましたが、これも信州ツキノワグマ研究会の提案が基になっており、研究会のメンバーも実際に対策員として関わってこられました。しかし、対策員は出勤した時だけの時間給での雇用のため、若い人が定着しにくく、地域との信頼関係を築く上でも問題があると指摘されました。その解決策の一つとして、小諸市ですでに導入されている正規職員によるガバメント・ハンターを県などで導入することを提案されました。現場での実践と科学的な知見に基づく研究会の活動は、行政や地域の人々に説得力をもって受け入れられているのではないのでしょうか。

■ 伊那谷自然友の会

伊那谷自然友の会は、伊那谷の自然をいろいろな角度からみつめ、研究するために、1985年に発足した同好者の会です。今回の発表では、飯田市上村程野地区で実施している調査の内容を中心に、貴重な自然環境の保全やその普及啓発に向けた動きについて紹介していただきました。程野地区は南アルプスの斜面に位置し、日本ジオパークにも指定されています。ここで植物の分布調査や地質調査、水質調査などを継続して実施しており、新たに活断層としての中央構造線が確認できたとのことです。ここには、チャートや蛇紋岩など珍しい地層もあり、こういう貴重な場所は多くの人に見てもらいたいということで、市と協議して保全を進めているそうです。地元の自治会や青年会も公園化に向けて動き始めており、地域の人たちと連携して観光や教育に生かしていきたいとのことです。これらの調査結果

は、飯田市美術博物館と連携し、講演会や研究発表会などで毎年公表されています。(文責：畑中健一郎)



伊那谷自然友の会の発表

活動紹介の展示 (資料展示と解説)

活動紹介の展示コーナーでは、調査結果をまとめた手作りのポスターや会誌などを22団体・個人に展示していただきました。毎年参加いただいている常連団体のほか、今回初めて参加していただいた団体も多く、それぞれの展示の

前で活発な意見交換がなされました。時間が十分ではありませんでしたが、参加された皆様は大変熱心に他団体と交流され、情報を収集しておられました。

展示団体・個人

- ・伊那谷自然友の会
- ・軽井沢サクラソウ会議
- ・クビワコウモリを守る会
- ・小諸ミズオオバコ保全会議
- ・白地図をぬろう会
- ・NPO法人 信州ツキノワグマ研究会
- ・NPO法人 千曲市環境市民会議
- ・ながの環境パートナーシップ会議
- ・長野県植物研究会
- ・長野自然観察の会
- ・公益財団法人 日本自然保護協会
- ・水と緑の会
- ・笠井 篤
- ・北信濃の里山を保全活用する会
- ・溪流保護ネットワーク・砂防ダムを考える
- ・自然観察指導員長野県連絡会
- ・NPO法人 信越トレイルクラブ
- ・信州水環境マップ・ネットワーク
- ・東信自然史研究会
- ・ながの環境パートナーシップ会議
スキー場跡地の自然復元プロジェクト
- ・日本昆虫協会長野支部
- ・野尻湖水草復元研究会



活動紹介の展示コーナーでは、各団体・個人の資料展示と解説を相互に行っていただきました。